

福井県教員採用試験

教職・一般教養

令和7年度(2024年実施)

1 1から5の数字が書かれたカードがそれぞれ1枚ずつある。その中から2枚同時に取り出すとき、2枚のカードに書かれた数字の和が奇数になる確率を、①～⑤の中から1つ選んで番号で答えなさい。[1]

① 1/2 ② 2/5 ③ 3/5 ④ 3/10 ⑤ 4/5

2 100人を対象に、ニンジン、ピーマン、タマネギ、オクラの4つの野菜それぞれについて、好きかどうかを調べるアンケートをとった。回答は、「好き」または「好きではない」のいずれかで答える形で、次の結果がわかっている。このとき確実に言えるものを、①～⑤の中から1つ選んで番号で答えなさい。[2]

【結果】

- ・100人全員が「好き」または「好きではない」と答えた野菜はなかった。
- ・ニンジンが「好き」と答えた人は、ピーマンは「好きではない」と答えた。
- ・ニンジンが「好き」と答えた人は、タマネギも「好き」と答えた。
- ・オクラが「好き」と答えた人は、タマネギも「好き」と答えた。
- ・ピーマンが「好き」と答えた人で、オクラが「好き」と答えた人がいた。

- ① ニンジンが「好き」と答えた人で、オクラも「好き」と答えた人がいる。
- ② ニンジンが「好き」と答えた人で、オクラは「好きではない」と答えた人がいる。
- ③ ニンジンが「好きではない」と答えた人は、タマネギもオクラも「好き」と答えた。
- ④ タマネギだけ「好き」と答えた人がいる。
- ⑤ ピーマンが「好き」と答えた人で、タマネギも「好き」と答えた人がいる。

3 源氏物語について適切でないものを、①～⑤の中から1つ選んで番号で答えなさい。

[3]

- ① 作者は紫式部である。
- ② 平安時代に書かれた。
- ③ 「あはれ」を特徴としている。
- ④ 54帖ある。
- ⑤ 日本最古の歌集である。

4 次の詩を読んで、空欄A、Bに当てはまる語句の組み合わせとして適切なものを、①～⑤の中から1つ選んで番号で答えなさい。[4]

著作権の関係で、掲載できません。

- ① A めしへ B おしへ
- ② A 虹 B 風
- ③ A 世界 B 他者
- ④ A 花 B 生命
- ⑤ A 無関心 B 不充分

5 次の英文を読んで、メールの目的として適切なものを、①～⑤の中から1つ選んで番号で答えなさい。[5]

著作権の関係で、掲載できません。

- ① To inform of a new receptionist
- ② To promote an employee
- ③ To confirm a reservation
- ④ To announce an event
- ⑤ To reply to an e-mail

6 航空図に使われ、地図の中心から目的地までの距離と方位を正確に表した図法の名称として正しいものを、①～⑤の中から 1 つ選んで番号で答えなさい。[6]

- ① モルワイデ図法
- ② メルカトル図法
- ③ 正距方位図法
- ④ グード図法
- ⑤ 舟形多円錐図法

7 完全変態の昆虫として正しいものを、①～⑤の中から 1 つ選んで番号で答えなさい。

[7]

- ① ハチ
- ② セミ
- ③ バッタ
- ④ トンボ
- ⑤ クモ

8 こども家庭庁は、「幼児期までの子どもの育ちに係る基本的なビジョン（はじめの100か月の育ちビジョン）（令和5年12月22日）」の中で、「アタッチメント（愛着）」の重要性について述べている。次の文は、「アタッチメント（愛着）」について述べたものである。空欄ア～ウに入る語句の組み合わせとして適切なものを①～⑥の中から1つ選んで番号で答えなさい。[8]

- ・ 赤ちゃんが養育者との間に築こうとする絆のような関係性である「アタッチメント（愛着）」の発達について、[ア] は4つの段階に区別した。
- ・ 子どもの育ちに必要な「アタッチメント（愛着）」は、子どもが怖くて不安な時などに身近なおとな（愛着対象）がその気持ちを受け止め、子どもの心身に寄り添うことで[イ] 感を与えられる経験の繰り返しを通じて獲得される [イ] の土台である。
- ・ 子どもは [イ] 感の下で、「遊びと体験」等を通して外の世界への挑戦を重ね、世界を広げていくことができる。このような「[イ] と挑戦の [ウ]」は、子どもの将来の自立に向けて重要な経験である。
- ・ 安定した「アタッチメント（愛着）」は、自分や他者への信頼感の形成を通じて、いわゆる [エ] の育ちにも影響を与える重要な要素であり、生きる力につながっていくとされている。

- | | | | | |
|---|---------|------|------|---------|
| ① | ア：デューイ | イ：安定 | ウ：交換 | エ：非認知能力 |
| ② | ア：デューイ | イ：安心 | ウ：交換 | エ：認知能力 |
| ③ | ア：デューイ | イ：安定 | ウ：循環 | エ：認知能力 |
| ④ | ア：ボウルヴィ | イ：安心 | ウ：循環 | エ：非認知能力 |
| ⑤ | ア：ボウルヴィ | イ：安定 | ウ：循環 | エ：認知能力 |
| ⑥ | ア：ボウルヴィ | イ：安心 | ウ：交換 | エ：非認知能力 |

9 次の文は、学習方法に関して述べたものである。空欄ア～エに当てはまる語句の組み合わせとして適切なものを①～⑥の中から1つ選んで番号で答えなさい。[9]

- ブルーナーが提唱した、教科で習得すべき原理原則を学習者が自分から発見していくような知識獲得方法を [ア] とよぶ。
- クロンバックは、教授の仕方によって得られる学習効果は一様ではないこと、それは学習者の適性によって異なることを指摘し、これを [イ] とよんだ。
- キルパトリックが提唱した、ある課題について子どもたちが、個人やグループで資料の収集や調査活動を行い、それをまとめる課題研究を [ウ] という。
- ジマーマンは、[エ] を計画、実行、評価のサイクルでとらえたモデルを提示した。

- | | | | |
|-----------|------------|------------|----------|
| ① ア：発見学習 | イ：適正処遇交互作用 | ウ：プロジェクト学習 | エ：自己調整学習 |
| ② ア：発見学習 | イ：学びの多様化 | ウ：プログラム学習 | エ：自己調整学習 |
| ③ ア：発見学習 | イ：学びの多様化 | ウ：プロジェクト学習 | エ：習慣的学習 |
| ④ ア：有意味学習 | イ：適性処遇交互作用 | ウ：プログラム学習 | エ：習慣的学習 |
| ⑤ ア：有意味学習 | イ：学びの多様化 | ウ：プログラム学習 | エ：習慣的学習 |
| ⑥ ア：有意味学習 | イ：適性処遇交互作用 | ウ：プロジェクト学習 | エ：自己調整学習 |

10 次のア～エは個別の教育支援計画について述べたものである。内容が正しい文の組み合わせとして適切なものを①～⑥の中から1つ選んで番号で答えなさい。[10]

ア 乳幼児期から学校卒業後までの長期的な視点に立ち、1人1人の障害の実情や教育的ニーズを踏まえ、適切な支援を行うことを目的に保護者の同意がなくても学校が作成できる。

イ 短期目標とともに長期目標や、さらに将来を展望した目標を記載することが望ましい。
ウ 学校からの支援内容のみならず、保健、医療、福祉、労働等の関係諸機関からの支援内容についても適切に記載する必要がある。

エ 作成には専門的な知識が必要なため、特別支援教育コーディネーターが作成する。

- | | | |
|-------|-------|-------|
| ① ア・イ | ② イ・ウ | ③ ウ・エ |
| ④ ア・エ | ⑤ ア・ウ | ⑥ イ・エ |

11 次の表は、青年期の仲間関係の変化についてサリバンの考えを基に示したものである。空欄（ア）～（ウ）に入る語句の組み合わせとして適切なものを①～⑥の中から1つ選んで番号で答えなさい。[11]

仲間関係	説明
[ア]・グループ	児童期に現れ、学校外で同じ行動をすることがグループの一 体感を強め、同じ行動をする者を友人と見なし、遊びを共有 できない者は集団から排除されるような関係が特徴となる。
[イ]・グループ	中学生の時期に現れ、同じ興味、考え、活動、言葉が共有さ れるグループで、おもに学校内での活動が中心となる。 [ア]・グループとの違いは、同じ行動ではなく同じ言 葉が重要であることが特徴である。
[ウ]・グループ	高校生の時期に現れ、互いの価値観や考え、将来の展望など が語りあわれるグループで、自己の確立と他者との違いを踏 まえた他者尊重が特徴となる。

- ① ア：ヤング イ：チャム ウ：ピア
② ア：ヤング イ：セイム ウ：シェア
③ ア：ヤング イ：チャム ウ：シェア
④ ア：ギャング イ：セイム ウ：シェア
⑤ ア：ギャング イ：チャム ウ：ピア
⑥ ア：ギャング イ：セイム ウ：ピア

12 「福井県教育振興基本計画（令和2年3月）」では、8つの基本的な方針のもとに、それ
ぞれ取り組む施策を示している。基本的な方針とその施策の組み合わせとして誤っている
ものを①～⑤の中から1つ選んで番号で答えなさい。[12]

番号	方針	施策
①	学ぶ喜びを知り、自ら進んで学ぶ意欲と力の育成	幼児教育の推進
②	適性や興味関心に応じた文化芸術、スポーツ活動 の促進	トップアスリートの養成
③	豊かな心、健やかな体の育成	お互いを尊重し豊かな心を育む教育の推進
④	特性や心情に配慮し、誰もが安心して学べる教育 環境の整備	学校における働き方改革の推進
⑤	ふるさとを愛する心と社会に貢献する志の育成	社会や地域を担う人材の育成

13 次の文は、「誰一人取り残さない学びの保障に向けた不登校対策『COCOLOプラン』（令和5年3月）」において示された取組である。空欄ア～ウに入る語句の組み合わせとして適切なものを①～⑥の中から1つ選んで番号で答えなさい。[13]

- 1 不登校の児童生徒全ての [ア] を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整えます。
- 2 心の小さなSOSを見逃さず、「[イ]」で支援します。
- 3 学校の風土の「[ウ]」を通して、学校を「みんなが安心して学べる」場所にします。

- | | | |
|-----------|---------|--------|
| ① ア：基本的人権 | イ：チーム学校 | ウ：見える化 |
| ② ア：基本的人権 | イ：全教職員 | ウ：見える化 |
| ③ ア：基本的人権 | イ：全教職員 | ウ：多様化 |
| ④ ア：学びの場 | イ：チーム学校 | ウ：多様化 |
| ⑤ ア：学びの場 | イ：チーム学校 | ウ：見える化 |
| ⑥ ア：学びの場 | イ：全教職員 | ウ：多様化 |

14 「生徒指導提要（令和4年12月改訂）」について以下の問い合わせに答えなさい。

(1) 「生徒指導提要」に示されている、「生徒指導の実践上の4つの視点」について、次の空欄ア～ウに入る語句の組み合わせとして適切なものを①～⑥の中から1つ選んで番号で答えなさい。[14]

【生徒指導の実践上の4つの視点】

- (1) [ア] の感受
- (2) [イ] 人間関係の育成
- (3) [ウ] の場の提供
- (4) 安全・安心な風土の醸成

- | | | |
|-----------|--------|--------|
| ① ア：自己存在感 | イ：共感的な | ウ：自己指導 |
| ② ア：自己存在感 | イ：対話的な | ウ：自己決定 |
| ③ ア：自己存在感 | イ：共感的な | ウ：自己決定 |
| ④ ア：自己効力感 | イ：対話的な | ウ：自己指導 |
| ⑤ ア：自己効力感 | イ：共感的な | ウ：自己指導 |
| ⑥ ア：自己効力感 | イ：対話的な | ウ：自己決定 |

(2) 上記の「生徒指導の実践上の4つの視点」をもって、学級担任として学級（ホームルーム）経営をしたり、教科担任として授業をしたりするにあたり、適切ではないものを①～⑤の中から1つ選んで番号で答えなさい。[15]

- ① 行事に取り組む際に、児童生徒自身に目標や努力する点などを考えさせ、「ふりかえりシート」などを用いてどこまで達成できたかを評価する。
- ② 児童生徒の発表に対して、失敗しないように皆に普段から声をかける。
- ③ 授業場面で、観察・実験・調べ学習等を通じて、自己の仮説を検証してレポートする活動を取り入れる。
- ④ 児童生徒がいじめや暴力行為をした場合には、毅然とした態度で対応する。
- ⑤ 学級目標を考える際には、児童生徒が中心となり、皆で話し合って決めるようにし、皆で協力して実践する場を設定する。

15 次の文は、「教育基本法」の前文である。空欄ア～エに入る語句の組み合わせとして適切なものを①～⑥の中から1つ選んで番号で答えなさい。[16]

我々日本国民は、たゆまぬ努力によって築いてきた民主的で文化的な国家を更に発展させるとともに、世界の平和と人類の [ア] の向上に貢献することを願うものである。

我々は、この理想を実現するため、個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求し、公共の精神を尊び、豊かな [イ] と [ウ] を備えた人間の育成を期するとともに、[エ] を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する。

ここに、我々は、日本国憲法の精神にのっとり、我が国の未来を切り拓く教育の基本を確立し、その振興を図るため、この法律を制定する。

- | | | | | |
|---|------|-------|-------|------|
| ① | ア：福祉 | イ：人間性 | ウ：創造性 | エ：伝統 |
| ② | ア：幸福 | イ：社会性 | ウ：国際性 | エ：歴史 |
| ③ | ア：幸福 | イ：人間性 | ウ：創造性 | エ：伝統 |
| ④ | ア：福祉 | イ：社会性 | ウ：創造性 | エ：歴史 |
| ⑤ | ア：幸福 | イ：人間性 | ウ：国際性 | エ：伝統 |
| ⑥ | ア：福祉 | イ：社会性 | ウ：国際性 | エ：歴史 |

16 次の文は、「いじめ防止対策推進法」第1章「総則」および第4章「いじめの防止等に関する措置」からの抜粋である。誤っているものを①～⑤の中から1つ選んで番号で答えなさい。[17]

- ① この法律において「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。
- ② いじめの防止等のための対策は、いじめが全ての児童等に関係する問題であることに鑑み、児童等が安心して学習その他の活動に取り組むことができるよう、学校内においていじめが行われなくなるようにすることを旨として行われなければならない。
- ③ 児童等は、いじめを行ってはならない。
- ④ 学校及び学校の教職員は、基本理念にのっとり、当該学校に在籍する児童等の保護者、地域住民、児童相談所その他の関係者との連携を図りつつ、学校全体でいじめの防止及び早期発見に取り組むとともに、当該学校に在籍する児童等がいじめを受けていると思われるときは、適切かつ迅速にこれに対処する責務を有する。
- ⑤ 学校の教職員、地方公共団体の職員その他の児童等からの相談に応じる者及び児童等の保護者は、児童等からいじめに係る相談を受けた場合において、いじめの事実があると思われるときは、いじめを受けたと思われる児童等が在籍する学校への通報その他の適切な措置をとるものとする。

17 次の文は、「教育公務員特例法」第4章「研修」からの抜粋である。空欄ア～オに入る語句の組み合わせとして適切なものを①～⑥の中から1つ選んで番号で答えなさい。

[18]

- ・ 教育公務員は、その職責を遂行するために、絶えず [ア] と [イ] に努めなければならない。
- ・ 教員は、[ウ] に支障のない限り、本属長の [エ] を受けて、勤務場所を離れて研修を行うことができる。
- ・ 教育公務員は、任命権者の定めるところにより、[オ] のまで、長期にわたる研修を受けることができる。

- | | | | | | |
|---|------|------|-------|------|--------|
| ① | ア：研修 | イ：修行 | ウ：部活動 | エ：承認 | オ：学級担任 |
| ② | ア：研修 | イ：修養 | ウ：部活動 | エ：承認 | オ：現職 |
| ③ | ア：研修 | イ：修行 | ウ：授業 | エ：命令 | オ：学級担任 |
| ④ | ア：研究 | イ：修養 | ウ：授業 | エ：命令 | オ：学級担任 |
| ⑤ | ア：研究 | イ：修行 | ウ：部活動 | エ：命令 | オ：現職 |
| ⑥ | ア：研究 | イ：修養 | ウ：授業 | エ：承認 | オ：現職 |

18 「学校教育法」第11条「校長及び教員は、教育上必要があると認めるときは、文部科学大臣の定めるところにより、児童、生徒及び学生に懲戒を加えることができる。ただし、体罰を加えることはできない。」に照らして、児童生徒への指導として適切ではないものを①～⑤の中から1つ選んで番号で答えなさい。[19]

- ① 別室指導のため、給食の時間を含めて生徒を長く別室に留め置き、一切室外に出ることを許さない。
- ② 放課後等に教室に残留させる。
- ③ 授業中、教室内に起立させる。
- ④ 休み時間に廊下で、他の児童を押さえつけて殴るという行為に及んだ児童がいたため、この児童の両肩をつかんで引き離す。
- ⑤ 練習に遅刻した生徒を試合に出さずに見学させる。

19 次の各説明と関連の深い人物名の組み合わせについて、誤っているものを①～⑤の中から1つ選んで番号で答えなさい。[20]

番号	説明	人物名
①	ソフィストの教育方針に反し、知徳合一の思想を唱えた。 産婆術という問答法で相手に無知を自覚させ、相手自身に新しい考え方を生み出させた。	ソクラテス
②	ソクラテスの弟子。それぞれの物体には、その本質となるイデアが実在しているとする「イデア論」を提唱した。代表的な著書「国家」において、優れた哲学者が政治を行うことを理想とする哲人政治を論じた。	プラトン
③	成城小学校を創設し、アメリカのパーカーストが考案したドルトン・プランを実践した。	鈴木三重吉
④	人間の感情や行動において、両極端を避けることを重要とする中庸の徳を説いた。多岐にわたる自然研究の業績から「万学の祖」とも呼ばれる。	アリストテレス
⑤	初代文部大臣として、小学校令、中学校令、帝国大学令、師範学校令の4つからなる「学校令」を公布した。	森有礼

20 次の文は、「特別の教科 道徳」の指導方法・評価について述べたものである。誤っているものを①～⑤の中から1つ選んで番号で答えなさい。[21]

- ① 読み物の登場人物の心情の読み取りを中心に、各学校で画一的な指導方法を展開することが必要である。
- ② 発達障害等のある児童生徒には、児童生徒が抱える学習上の困難さの状況等を踏まえた指導及び評価上の配慮が必要である。
- ③ 道徳科の特質を踏まえれば、評価に当たって、他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行なうことが求められる。
- ④ 道徳科における評価は、児童生徒の側から見れば、自らの成長を実感し、意欲の向上につなげていくものである。
- ⑤ 道徳科における評価は、教師の側から見れば、教師が目標や計画、指導方法の改善・充実にむり組むための資料である。

21 小学校・中学校の「総合的な学習の時間」および高等学校の「総合的な探究の時間」について、以下の問い合わせに答えなさい。

(1) 次の表は、それぞれ「総合的な学習の時間」および「総合的な探究の時間」において育成を目指す資質・能力について示したものである。空欄ア～ウに入る語句の組み合わせとして適切なものを①～⑥の中から1つ選んで番号で答えなさい。[22]

校種	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
高等学校	課題について [ア]・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する知識（及び概念）など	探究することを通して身に付ける課題を見いだし [イ] する力	[ウ] に探究するとの経験の蓄積を自己有用感や社会貢献の意識へつなげ、よりよい社会の実現に努めようとする態度を育てる。など
中学校	(同上)	探究的な学習を通して身に付ける課題を見いだし [イ] する力	[ウ] な探究活動の経験を社会の形成者としての自覚へつなげ、積極的に社会参画しようとする態度を育てる。など
小学校	(同上)	(同上)	[ウ] な探究活動の経験を実社会・実生活への興味・関心へつなげ、進んで地域の活動に参加しようとする態度を育てる。など

- | | | |
|---------|------|------------|
| ① ア：横断的 | イ：解決 | ウ：協同的（協働的） |
| ② ア：横断的 | イ：発信 | ウ：協同的（協働的） |
| ③ ア：横断的 | イ：解決 | ウ：実践的（実戦的） |
| ④ ア：主体的 | イ：発信 | ウ：協同的（協働的） |
| ⑤ ア：主体的 | イ：解決 | ウ：実践的（実戦的） |
| ⑥ ア：主体的 | イ：発信 | ウ：実践的（実戦的） |

(2) 次の文は、「総合的な学習の時間」および「総合的な探究の時間」の評価について述べたものである。誤っているものを①～⑤の中から1つ選んで番号で答えなさい。

[23]

- ① 児童生徒の学習状況の評価に当たっては、これまでと同様に、ペーパーテストなどの評価の方法によって数値的に評価することは、適当ではない。
- ② 具体的な評価については、各学校が設定する評価規準を学習活動における具体的な児童生徒の姿として描き出し、期待する資質・能力が発揮されているかどうかを把握することが考えられる。
- ③ 信頼される評価とするためには、教師の適切な判断に基づいた評価が必要であり、各学校において定められた評価の観点を、1単位時間で全て評価するよう心がける。
- ④ 児童生徒の成長を多面的に捉えるために、多様な評価方法や評価者による評価を適切に組み合わせることが重要である。
- ⑤ 学習状況の結果だけではなく過程を評価するためには、評価を学習活動の終末だけではなく、事前や途中に適切に位置付けて実施することが大切である。

22 次の文は、「学習指導要領の変遷」について述べたものである。空欄ア～エに入る語句の組み合わせとして適切なものを①～⑥の中から1つ選んで番号で答えなさい。[24]

<平成10～11年改定>

- 基礎・基本を確実に身に付けさせ、自ら学び自ら考える力などの「[ア]」の育成
(教育内容の厳選、「[イ]」の新設)

<平成20～21年改定>

- 「[ア]」の育成、基礎的・基本的な知識・技能の習得、「[ウ]」等の育成のバランス
(授業時数の増、指導内容の充実、小学校外国語活動の導入)

<平成27年一部改正>

- 道徳の「特別の教科」化

「答えが一つではない課題に子供たちが道徳的に向き合い、考え、「[エ]」道徳教育への転換

- | | | | |
|----------|-------------|---------------|--------|
| ①ア：生きる力 | イ：生活科 | ウ：関心・意欲・態度 | エ：深める |
| ②ア：生きる力 | イ：総合的な学習の時間 | ウ：思考力・判断力・表現力 | エ：議論する |
| ③ア：生きる力 | イ：生活科 | ウ：思考力・判断力・表現力 | エ：深める |
| ④ア：確かな学力 | イ：総合的な学習の時間 | ウ：思考力・判断力・表現力 | エ：議論する |
| ⑤ア：確かな学力 | イ：生活科 | ウ：関心・意欲・態度 | エ：議論する |
| ⑥ア：確かな学力 | イ：総合的な学習の時間 | ウ：関心・意欲・態度 | エ：深める |

23 次の文は、「小学校学習指導要領（平成29年3月告示）」、「中学校学習指導要領（平成29年3月告示）」、「特別支援学校幼稚部教育要領、小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）」の第1章「総則」の一部である。ただし、文中の「児童」「児童理解」は、中学校では「生徒」「生徒理解」に、特別支援学校では「児童又は生徒」「児童理解又は生徒理解」となる。空欄ア～ウに入る語句の組み合わせとして適切なものを①～⑥の中から1つ選んで番号で答えなさい。なお、設問中の文章は小学校学習指導要領を基本にしている。[25]

学習や生活の基盤として、教師と児童との信頼関係及び児童相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃から[ア] の充実を図ること。また、主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと、個々の児童の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリングの双方により、児童の発達を支援すること。

児童が、自己の存在感を実感しながら、よりよい人間関係を形成し、有意義で充実した学校生活を送る中で、現在及び将来における自己実現を図っていくことができるよう、児童理解を深め、学習指導と関連付けながら、[イ] の充実を図ること。

児童が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、[ウ] 教育の充実を図ること。

- | | | |
|----------|-----------|--------|
| ① ア：特別活動 | イ：カウンセリング | ウ：キャリア |
| ② ア：特別活動 | イ：生徒指導 | ウ：生涯学習 |
| ③ ア：特別活動 | イ：カウンセリング | ウ：生涯学習 |
| ④ ア：学級経営 | イ：カウンセリング | ウ：キャリア |
| ⑤ ア：学級経営 | イ：生徒指導 | ウ：キャリア |
| ⑥ ア：学級経営 | イ：生徒指導 | ウ：生涯学習 |

解答番号	正答	解答番号	正答	解答番号	正答
1	3	21	1	41	
2	5	22	1	42	
3	5	23	3	43	
4	2	24	2	44	
5	4	25	5	45	
6	3	26		46	
7	1	27		47	
8	4	28		48	
9	1	29		49	
10	2	30		50	
11	5	31		51	
12	4	32		52	
13	5	33		53	
14	3	34		54	
15	2	35		55	
16	1	36		56	
17	2	37		57	
18	6	38		58	
19	1	39		59	
20	3	40		60	